

要スル ●材質ハ產地ニヨリ決シテ一様ナラザルモ概シテ適度ニ強韌ナル組織ヲ有シ平等デ密接シタ木理ガ

アリ一度乾燥スルト狂ガ生ジナイコレガ木材トシテ貴イ所デアル又 *Crotch Malogany* ト云フノハ「ベニア」板ニナツタモノデアル ●材ノ重量ハ乾燥シタ良材ニ於テハ一立方呎五十二封度半位ハアル夫レカラ使用サ

レル部分ハ紫檀ト同様心材デアツテ淡乃至深褐色ヲ呈シタ部分デ白太ノ部分ハ取去ラレテシマウノデアル

●千八百六十五年以來真正まほがにーヲ移植スルコトガ行ハレ印度、ビルマ、アンダマン、亞弗利加ノ東西岸及ビ比律賓ニ於テ著々良好ナル成績ヲ舉ゲツ、アルカラ將來ハ勿論現時ニ於テモ此方面カラ斯材ノ供給ヲ見ル次第デアル ●まほがにーハ玖馬、メキシコ、南米デハ *Caoba*, *Caobo* 獨逸デハ *Mahagonholz*, *Acajouholz*

伊太利デハ *Albero di acajou* ホルトガルデハ *Pao magno* ンロリダ地方デハ *Madeira*, *Madeira wood* ナド呼バレテ居ル尙 *Acajou* ハ濠洲デハ他ノ木ニ充テ、居ル

○臺灣デ採集シタめりんすぐけ科ノ一珍種

緒 方 正 資

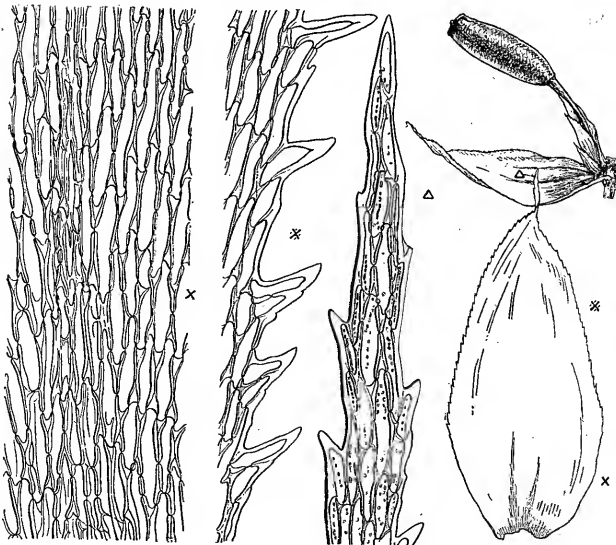
大正十五年一月地衣採集ノ爲メ臺灣ヲ縦走セル蕃軒朝比奈博士ノ驥尾ニ附シテ阿里山ニ到リシニ一薔類ノ樹皮ニ著生シテ其處ニ在ルニ會セリ乃チ直ニ之ヲ採集シ後之ヲ鏡檢セシニ是レめりんすぐけ科中ノ一珍種 *Endornichella elegans* (Dz. ex M.K.) FLEISCH. ナルコト判明セリ、本種ハ熱帶性ノ薔類ニシテ既ニ松田英二君ガ大正七年一月五日阿緬ニ於テ採集セラレタルコトアレバ同島ノ南部ニ於テハ今後更ニ各處ニ發見セラル、コトナルベシ(寫真ハ殆ンド標本實物大、葉並ニ子囊諸圖ハ廓大)

余ハ本種ヲ檢定スルニ當リ前記松田君ノ採集ニ係ルモノニテ笹岡久彦君ガプロテルス氏ニ送り檢定ヲ求メタルモノ及ビ笹岡君ノ所藏スル比律賓イロイロ産ノ標本ヲモ參酌セリ後者ハ葉ノ頂部極メテ狹長トナリ細胞ノ構造



臺灣産たううちこけ(新稱)
Endotrichella elegans (Dozy et Molke.) Fleisch.
(殆んど實大)

(標本撮影)



同上ノ葉ト子囊(廓大)

(木村康一氏寫生)

ニ多少ノ相違アルヲ認メタリ又エングレル氏植物分科大全ノ圖ヲ按ズルニ葉ノ全型圖ニ中筋ヲ見ザルモ基部ニ於テ又狀ニ分岐セルモノアルハ右圖ノ如クニシテ此部分ノ細胞ハ特ニ狹長ナリ以上記述スル所ハ前陳プロタルス氏所檢ノモノヲ標準トシタルモノナルコト勿論ナリトス

○斷枝片葉 (其二十六)

牧野富太郎

●まくり即ち鵲胡菜ノ出典

後藤光生編輯ノ「本草綱目補物品目録」

〔寶曆二年〕

卷ノ上ニ『鵲胡菜』閩書。漳州府志

ニ出ヅ曰ク海石上ニ生ズ散碎色微ク黒ク小兒腹中ニ蟲アルニ之ヲ食フテ下ル○若水ガ曰ク俗ニ謂フ馬窟羶マクワヅトアル、

「閩書南産志」

和刻ハ寶延四年(即チ寶曆元年)西曆一七五三

卷ノ上ニハ『鵲胡菜』海石上ニ生ズ散碎色微黒小兒腹中ニ蟲病アレハ

炒リ食テ能ク愈ユ漢文ト出デ「漳州府志」卷ノ二十七ニハ『鵲胡菜』散碎花微黒小兒腹中ニ蟲アレハ之ヲ食ヘバ

下ル漳浦ニ出ヅ漢文ト出テ居ル、具原益軒ノ著「大和本草」

〔寶永六年〕

卷ノ八ニハ『鵲胡菜』閩書ニ曰ク海石ノ上

ニ生ジテ散碎色微黒小兒腹中ニ蟲病アレハ少食ヘバ能ク愈ユ漢文○甘草ト同煎ジ用ユレバ小兒腹中ノ蟲ヲ殺ス初

生ニモ用ユ漢文ト書イテアル、まくりハどくまくりト云フノガ本名デソレハ毒ヲ追ヒマクリ除ケルカラサウ呼ブ

ノダトイフ一ニ海仁草ト稱スル、今日マクニント云フ驅蟲藥ガ此レカラ製劑セラレ藥舗デ傳ラレテ居ル

●ふくわうさう

さく科ノ宿根艸ニふくわうさう一名さいたふぐち (Prenanthes acrifolia Benth.)

ト云フ

者ガアツテ諸州ノ山地ニ生ズル其もみぢ狀ニ淺裂セル葉其生白キ花ハ頗ル看者ノ注意ヲ惹クニ足ルモノデアアル此草ノ繁殖法ガ亦他草ト異ツテ其地中ノ莖カラ或ハ短ク或ハ長イ細匍枝ヲ分チ其枝端ニ小球塊ガアツテ此レカラ新苗ヲ發生シ株ヲ殖シテユク特性ガアル、ふくわうさうハ伊勢ノ福王山ニ生ズルカラ起リさいたふぐさハ城州比叡山ノ西塔ニ生ズルカラノ名デ本草圖譜ニ據レバさいたふぐさハ當時京都デ呼ビシ名ふくわうさうハ同ジ